

ば」と頑張っているとこもあります。

地域には、伝統的なケン玉、お手玉、ビー玉などの上手な人もいれば、竹馬・竹トンボなど作ってあそべる人もいます。或は歌の好きな、コーラスの指導やうたを作曲する人もいます。スポーツの得意な人、むかしばなしや伝説をよく知っている、お年寄。こういう地域の力を引きだし、組織することに

## 13 大学・専修・各種学校 ——子どもの生き方と進路

最近、大学（短期大学をふくむ）への進学率が三六％前後で停滞していること、それにくらべて専修学校への進学者が増加していること、などをもって、若者の「大学はなれ」がすすんでいるという指摘があります。しかし、この大学進学率の停滞という数字は、きちんとみしてみる必要があります。

高校進学率の全国平均は九五％程度ですが、この場合、最高（九七％）と最低（九一％）との差は六％程度で、地域格差は著しく縮まっています。ところで大学進学率は、全国平均が三六％程度といっても、最高（四九

よって、子どもたちをより一層、人間として成長させること。そこに豊かな文化、たのしいあそび、子どものなかまづくりがあると思うのです。全国から集って、各地に広げられている実践で交流し、よりたしかな、より豊かな文化がたしかめられればと思います。私も実践をもちこもうと思っています。

（子どもの文化研究所 中村 博）

％）と最低（一九％）との差は三〇％にも達しており、北海道、東北地方、沖縄、南九州は軒なみに二〇％台です。平均値のうらにある地域格差が固定することを肯定するような評価に、すなおに賛成することはできません。

大学進学率が足踏みしている背景には、「臨調・行革」路線による国立大学の新增設・定員増の抑制と、私学助成の切り下げ、私学の新増設の抑制という事情があります。入学定員が微増にとどまっていれば、進学率はあがらないのが当然です。学費の相つぐ値上げと

物価上昇による生活費の圧迫がありますから、下宿させて大学に出すことが中・低所得層にはだんだんむづかしくなっている、という事情も見逃せません。僅かな頼りとなる日本育英会の奨学金についても、利子をつけて返済させる施策がすすめられています。

一九八六年からはじまる一八歳年齢人口の増加という事態を、文部省は、施設や教職員をふやさないと、学生数だけを臨時増募するつまりつめ込み教育で切り抜けようとしています。こうして研究条件・学習条件が急速に悪化することは目にみえています。共通一次試験が導入される頃から、高校生の進学先を模擬試験の成績、偏差値によって、振り分け、あるいは大学進学そのものをあきらめさせるという事態もすすんでいます。大学進学の道にさまざまな困難をつくり出しながら、他方で、就職に有利、大卒の肩書きよりは腕に力をつける等々のキャッチフレーズで専修学校進学へ誘導するというのが、昨今の教育政策の一つの特徴のようにみえます。

ここ数年、たしかに専修学校への進学者、進学率は増加の傾向にあります。この専修学校については、私立学校が多いこともあって

膨大な費用をつぎ込んだ宣伝が行なわれていることが目立ちます。しかしその実態は、ふつうの学校のように統計が整備されていない、専門がひじょうに細かく分けられている、私立学校が圧倒的に多いなどの事情のためによくわからない部分が多いようです。学生数を基礎とした施設や教員数などの基準は大学・短大よりもゆるいのですが、外観や施設だけを見ればなやかで充実してみえる場合が多いため、宣伝にげんわくされて入学している場合も少なくないようです。公表された資料が少なく不明な点が多いのですが、そのこと自体が一つの問題ですが、中退者が高校や大学、短大よりずっと多いといわれ、卒業する率が低いことは、このことを裏書きしているともいえます。経営優先のために教員数が不足したり、無資格教員が多いなどという問題も指摘されています。

しかし、専修学校が、大学・短大とは違って、機敏に時代の要求にこたえる新しい教育需要を満たしていることはいなめません。卒業後の就職という点でも、いちがいにいいえませんが、大学・短大とは異った新しい職業分野を切り開いていることも事実のよう

です。だからこそ、若い人たちの間に、一定の魅力をつくりだしているのだとおもわれま

す。しかし、この専修学校卒業者の就職という面については、一昨年の討議資料で星村博文さんも指摘していたように、スタイリスト、デザイナー、プログラマーなどカタカナ書きの一言はなやかに時代の先端を行くかのような職業が、「不安定雇用」や「使い捨て」の職業でもあることがどのくらい理解されているのかという問題もあります。

大学・短大にすすむことも、手に職をつけるために専修学校や各種学校にすすむことも、高校をでてすぐ就職することも、若者たちの前に開かれている道です。ところで、最近情報伝える組織はひじょうに発達しているのに、若者たちには未来が見えにくくな

へ婦人の差別撤廃条約

女子浪人不足

っているといわれます。とくに女子については、結婚までしか未来が見とおせない場合が多いといわれ、このことが女子を大学よりも短大にすすませる契機になっているともいわれています。きびしい現実のもので、しかし生き生きと働きくらしている親やまわりの人の真実の姿が見えにくくなっているのだとおもわれます。未来の自分の生き方にかかわらせて、自分の進路を切り開くよう援助するところが重要であるようにおもわれます。日頃、学業成績が進路選択の幅をせまくするといいますが、逆に、自立して生きる見とおしが立つならば、それをばねにして学習意欲をよびおこすことができます。ともすれば偏差値で枠づけられがちな進路を、主体的にきり拓くこと、そのばねをどうつくりだすかを話し合いまししょう。

(名古屋大学 佐々木享)

## 14 教育の国家統制をめざす教育大臨調

### ——民主教育を守るために

中曾根首相が唱える「教育大臨調」には、ホンネとタテマエの矛盾した両側面が含まれています。そのタテマエの側面とは、「教育

大臨調」に当るものとして臨時教育審議会(臨調)を首相直属の下に設置し、ここで「教育改革」を論議するに当って、教育基本法と